

み え ほ く せ い ち い き  
**三重北勢地域**

じ ば さ ん ぎ ょ う  
**の地場産業**

四日市市地場産業振興センター

1. 地場産業ってなに？

その土地の人たちがその場所で自分たちのお金や労働力、技術を使って、その場所にある材料で、その土地でしかできないものをつくることです。

2. 私たちが住んでいる三重県の北勢地域には、どんな地場産業があるの？

四日市萬古焼、伊勢型紙、鈴鹿墨といった伝統的工芸品のほか、伊勢茶、大矢知手延素麺、食用油、地酒、漁網、撚糸、タオル、ローソク、鋳物、サンダル、時雨蛤、日永うちわなどがあります。

3. 伝統的工芸品ってなに？



伝統マーク

おもに、日常生活に使用されている工芸品で、伝統的技術または技法によって手工的に製造されたものです。経済産業大臣が指定するもので、三重県では、「四日市萬古焼」「鈴鹿墨」「伊賀くみひも」「伊賀焼」が伝統的工芸品に、「伊勢型紙」が伝統的工芸用具に指定されています。全国では235品が指定されています。(令和4年11月現在)

4. なぜ、この地域に発展してきたの？

三重県の北勢地域は昔から気候、風土、交通に恵まれていました。東には伊勢湾があって魚を捕るために「網」が造られました。伊勢湾では、貝（蛤、アサリ）も多く採れたため、貝を加工する産業「時雨蛤」が発達しました。西には鈴鹿山脈があり、「お茶」の栽培に適した気候であったり、良い水があることから「酒造り」が盛んになりました。

また、北勢地域は小麦の産地であったことや鈴鹿おろしという冷たい季節風で乾燥ができたことから「そうめん」造りが発達しました。それから、この地域は、江戸時代から東海道（江戸日本橋～京都三条大橋）が通っていたということで、街道筋のみやげ物として、「日永うちわ」、「永餅（安永餅）」が有名になりました。

5. 現在、どんな問題をかかえているの？

四日市萬古焼では、全国の人たちにあまり知られていないことや、中国をはじめとするアジアの国々から安い焼き物がたくさん輸入されて、四日市萬古焼の売上に影響していること、鈴鹿墨では、寒さのきびしい冬に作ったり、手作業のため、職人さんの手足が真っ黒になり大変つらい仕事なので、若い人たちが職人になりたがらないこと、伊勢型紙では、生活様式の変化で日常生活に着物を着る機会が少なくなったことや、伝統ある彫刻技術を受け継ぐ若い人が少ないことが問題となっています。



# よっかいちばんこやき どんとうてきこうげいひん 1. 四日市萬古焼 (伝統的工芸品)

三重県の地場産業を代表するのが四日市萬古焼です。国内向けの紫泥急須(チョコレート色)や和・洋食器、土鍋、花器、植木鉢、輸出用のディナー食器、ノベルティ(置き物)などを生産しています。中でも土鍋は、全国の約6割～8割を生産していると言われています。

## 四日市萬古焼のできるまで

- ①原料・・・全国各地の焼き物に適した土や外国の土を細かく砕いて、調合します。
- ②成形・・・土を急須や食器などの形にします。
- ③素焼き・・・700℃前後で焼いて丈夫にして絵付けをしやすいにします。
- ④下絵付け・・・陶器用の絵の具で書いたり、印刷した絵を写します。
- ⑤施釉・・・つやを良くしたり、陶器を丈夫にするため、うわぐすりをかけます。
- ⑥本焼成・・・1,100℃～1,280℃の温度で焼きます。(陶器によって温度を変えます。)
- ⑦上絵付け・・・焼き上がった製品の上に絵を書いたりして、再度750℃前後で焼き上げます。
- ⑧検査、梱包、出荷・・・検査して、箱などにつめて販売されます。

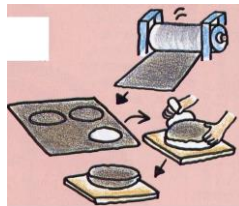
成形方法もいろいろあります。

ろくろ成形



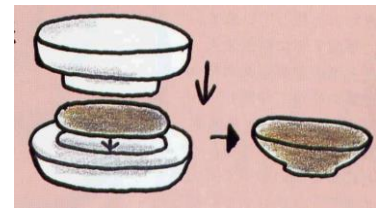
ろくろの上で、一品一品  
手で引き上げて形を作  
ります。

タタラ成形



土を板状にして形を作り  
ます。

湿式プレス成形

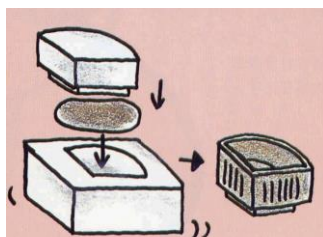


上下の型の中に土を入れて圧力をかけ  
て形を作ります。

泥から作る方法もあります。粘土を液状にして型に流し込み形ちを作ります。

圧力鑄込み成形

(圧さく鑄込み)



上下に割れる石こう型の中に泥状の土を圧力  
をかけ、充てんし、形を作る方法です。

排泥鑄込み成形

(ガバ鑄込み)



袋状になった石こう型の中に泥状の土を入れ、  
余分な泥を流して形を作る方法です。



## 2. 鈴鹿墨 (伝統的工芸品)

鈴鹿は奈良とならんで、日本における墨の生産地です。(生産量 鈴鹿30%、奈良70%)  
 鈴鹿は、墨作りに必要な材料が入手しやすく、弱アルカリ性水質と鈴鹿おろしが原料の  
 にかわのねばりを最適にするなど、気候風土の条件に恵まれていました。現在も昔なが  
 らの「型入れ成形」などの技法を用いて「油煙墨」、「松煙墨」など製造しています。

### 鈴鹿墨のできるまで

- ① 墨の原料
  - すす (なたね油や松)
  - にかわ (牛や鹿の皮や骨をにたもの)
  - 香料 (じゃこう、りゅうのう)
- ② 混合
 

原料を最初はミキサーでまぜ、その後は手や足で注意深く混ぜ合わせます。
- ③ 型入れ
 

混ぜ合わせた固まりからちぎりとって天びんばかりで計量し棒状に丸めてすばやく木型に入れます。
- ④ 乾燥
 

含まれた水分を少しずつ減らします。

  - 灰の中で乾かす (5日~30日)
  - 空気中で乾かす (2か月~6か月)
- ⑤ 仕上げ
 

乾燥した墨の汚れをおとして表面を大蛤でみがきます。墨に名前やもよう、絵つけをします。1丁ずつ和紙に包み、箱につめて包装します。



混合



型入れ



乾燥



### 3. 伊勢型紙 (伝統的工芸用具)

伊勢型紙とは、和紙を加工したものに彫刻刀でいろいろな絵や模様を彫ったものをいいます。着物の布に柄や模様を染めるときに使うもので、布の上に型紙をおき、染料で染めると型紙と同じ模様ができます。現在、生産量は全国の99%で、京都や東京に運ばれ、職人さんにより着物が染められています。

#### 伊勢型紙のできるまで

##### ①型地紙をつくる

模様を彫る茶色の紙を型地紙といいます。

この紙は3まいの和紙を柿渋ではり合わせて、加工したものです。

##### ②模様を彫る

いろいろな形をした彫刻刀で模様を彫ります。

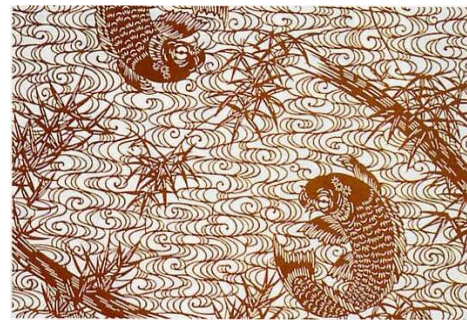
模様によって次の4つの彫り方があります。

##### [しまぼり]



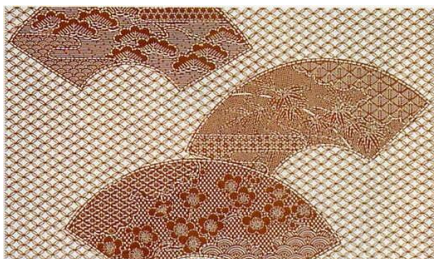
じょうぎを使って、しま模様  
に彫ります。

##### [つきぼり]



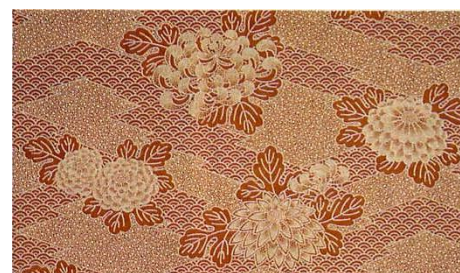
小刀を真っ直ぐに立て突くように  
前にすすめます

##### [道具ぼり]



いろいろな形をした刃を使っ  
て彫ります。

##### [きりぼり]



刃の先が半円形のものを使って回  
しながら彫ります。

③糸入れ しまぼりとか、ほりのこしの少ない型紙は、染めるときに、動くので糸を入れて動かさないようにします。

#### 4. 伊勢茶

三重県の生産量は静岡県、鹿児島県に次いで全国第3位です。伊勢茶は新芽が出たころ、茶の木に黒いネットでおおいをして日光をさえぎり、香味を出す「かぶせ茶」を多く作っています。かぶせ茶は甘み、しぶみがほどよく、濃い緑色をしています。

[お茶の種類]

煎茶、玉露、かぶせ茶、ほうじ茶、玄米茶、ウーロン茶、紅茶などがあります。茶の木の種類や作り方によっていろいろなお茶に分かれています。

[お茶の効能]

緑茶にはカテキンと呼ばれるものが入っていて、リラックスさせる効果や高血圧の予防に役立つと言われています。また、殺菌作用があり、虫歯の予防にもなると言われています。

#### 5. 大矢知手延素麺

鈴鹿おろしと朝明川の清流という気候と風土に恵まれ、原料である小麦の生産地であったことにより大矢知地区で多く生産されるようになりました。冬場に生産され、引きしまったコシの強さ、なめらかな舌ざわりの良さが評判です。

[そうめんとひやむぎの違い]

そうめん ⇒ 直径が1.3mm未満。 ひやむぎ ⇒ 直径が1.3mmから1.7mm。」

#### 6. 食用油

油造りが始まったのは江戸時代で、菜種を原料とした菜種油が「伊勢水」と呼ばれ、全国で有名になりました。現在もごま油やてんぷら油などが造られています。

#### 7. 地酒

良い酒造りの条件である「水」「米」「季節」に恵まれ、江戸時代の中ごろから酒造りが始まりました。現在、三重県では35の酒蔵があり（そのうち北勢地域は13）それぞれが工夫をこらしたおいしいお酒を造っています。

## 8. いらこ

四日市市よっかいちしの天カ須賀地区周辺あま す か ち く しゅうへんで「なにわおこし」「かみなりおこし」などの原料げんりょうとなる菓子種かしだねを生産せいさんしています。現在げんざいでは「あられ」や「フライ菓子」の原料げんりょうとしても生産せいさんしています。

## 9. 製 網

魚網ぎょもうの生産せいさんは、四日市市よっかいちしの富田とみだ、富州原地区とみすはらちくを中心ちゅうしんとして発達はったつし、優秀ゆうしゅうな技術ぎじゆつにより品質ひんの良よい魚網ぎょもうを造つくっています。

## 10. 撚 糸

撚糸ねんしは魚網ぎょもうと関わりかかが深ふかく、魚網ぎょもうの原料げんりょうとして使つかわれていました。現在げんざいでは、漁網用撚ぎょもうようねん糸しだけでなく、ミシン糸いと、織物用おりものようとして撚り糸加工よ いと か こう おこが行おこなわれています。

## 11. タオル

明治時代めいじじだいの終おわりから、富州原地区とみすはらちくを中心ちゅうしんに発達はったつしてきました。現在げんざいも高たかい技術ぎじゆつ力りよくにより品質ひんの良よいタオルが生産せいさんされています。

## 12. 製 糸

製糸せいしとは、まゆから糸いとをつくることを言いい、江戸時代えどじだいの終おわりごろ、四日市市よっかいちしの室山町むろやまちょうで開か始いされました。しかし、海外かいがいにおける生産せいさんが増ふえ、輸ゆ入にゆうが増ふえたため、平成7年へいせい ねんに生産せいさんを止やめてしまいました。

## 13. メリヤス

メリヤスとは、綿糸めんしや毛糸けいとなどの機き械かいを使つかって、よく伸のびたり縮ちぢんだりするよう編あんんだものをいいます。明治時代めいじじだいの終おわりごろから四日市市よっかいちしの高砂町たかざごちょうで作つくり始はじめました。

## 14. 綿糸紡績

綿糸紡績めんしぼうせきとは、綿花めんかや綿せんいめんを糸いとにすることです。原料げんりょうを中国ちゅうごくやインドいんドから四日市市よっかいち港こうへ輸ゆ入にゆうし、四日市市よっかいち市内し内の3つさんの工こう場じょうが造つくっていました。現在げんざいは、2つにの工こう場じょうが止やめてしまい、東洋紡績三重工場とうようぼうせき み え こうじょう なかがわら（中川原）だけが造つくっていましたが、羊毛ようもうの糸いとや羊毛生地ようもう き じの生産せいさんにかわわってきまいました。

## 15. ひなが 日永うちわ

かつて伊勢参りのおみやげとして喜ばれましたが、現在作っているのは1社だけになりました。日永うちわは女竹を使っており、それを55本前後に細かく割き、交互に袋状に編んでいるので、あおぐとしなやかで、風がやわらかいのが特徴です。絵がらもあざやかで飾り用としても愛されています。

## 16. ローソク

昭和2年に亀山でローソクがつくられ、初めは神仏用でしたが、昭和13年にアートキャンドルもつくられるようになりました。国内の約6割が三重県内でつくられていて全国に販売されています。

## 17. 鋳物

鋳物とは、鉄・マグネシウム・なまりなどの金属をとかして、型に流し込んで造るもので、桑名市、いなべ市で多く造られています。マンホールや自動車のエンジン、コンロなどが生産されています。

## 18. サンダルはきもの

桑名のサンダルは、明治時代の「はなお」の製作から始まり、すぐれた技術が現在に引きつがれています。男性用のベンハー、カリプソや女性用のミュールなどが造られ、全国に販売されています。



## 19. にゅうせいひん 乳製品

鈴鹿山脈のふもと一帯では、多くの乳牛が飼われ、たんせいこめた牛から乳がしぼられ牛乳や乳製品が作られています。